10.　日本各地の鬼伝説

「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・?

2002.2.3.　joni.htm by M.Nakanishi

2002年2月3日　節分。
例年になく暖かい節分である。　今年も各地で節分の行事として「鬼追いの豆まき」行事が行なわれている。
日本各地で広く鬼伝説が伝承されている。この鬼伝説には　古代「産鉄の民」「鉄の技術を伝えた渡来人」など「古代製鉄の日本伝来」と密接な関係があり、「鬼伝説」のあるところ「古代たたら」の地であることが多い。
「鬼伝承」の「鬼」は本当に「悪者」か・・・?
鬼伝承が「古代　和鉄鉄」とかかわっていたとしたら「鉄とかかわっていた者はみな　悪者か・・・・・?」「そんな事はない。・・・・」
「古代たたら」製鉄には「山を崩して　その砂を川に流して砂鉄を得、また　大量の樹を切って炭を作る」つまり　山を丸裸にし、川を荒らし、汚染することがつきもの。
平野部の「農耕の民」と「産鉄の民」の争いがこのような「鬼伝説」となって伝承されているといわれる。　また「産鉄の民」がもたらした「鉄」は「農耕具・武器」として圧倒的な威力を発揮。その支配をめぐって多くの部族・国が争い、多くの伝説を産んできた。
「鬼伝説」を伝承する側の立場で好きなように伝承された為にすべて「鬼退治」になってしまったのか・・・・
日本に伝わる「鬼退治」伝承の多くが、いつも「だまし討ち」であったことは「鉄を有する民の勢力」がいかに大きかったかを物語っている。　抗争の中でこれらの勢力を取り込みつつ古代日本が形成されていったのではなかったか・・・。日本形成に果たした役割はむしろきわめて大きく、このことが「鬼伝説」がこれほど多く、また「今も親しみを持って　語り継がれている」理由でなかろうか・・・・。
また、青森県津軽　古代製鉄の郷　岩木山北山麓の弘前市鬼沢には「村人を助けた鬼」の伝承が伝わっている。　今も節分には「福は内　鬼も内」と豆をまき、夏の「弘前ねぷた」には里を挙げて「鬼沢のねぷた」が街を練り歩く。　今も里人に広く親しまれている。

節分の今日　日本各地に伝わる「鬼伝承」を「Iron Road　和鉄の道 」を支えた人の群れと捕らえて整理をしてみました。
「古代産鉄の民」として日本の源流を作った「鬼」。　日本の「鬼」バンザイの気持を込めて

2002.2.3.　節分　　M.Naksanishi

日本各地の鬼伝説　リスト

1. 伯耆国　孝謙天皇　鬼退治伝説　鳥取県　溝口町
   日野川流域　楽楽福神社の伝承
2. 北上の鬼　蝦夷の雄「アテルイ」　岩手県一関・胆沢
   坂上田村麻呂の蝦夷征伐
3. 丹後国　大江山酒天童子伝承　京都府　大江町
4. 吉備国　「桃太郎伝説」の鬼ケ城　岡山県総社市
5. 青森県　岩木山(巌鬼山)山麓の鬼伝説　青森県弘前市・鰺ヶ沢市

1.　伯耆国　鳥取県　溝口町　　孝謙天皇　鬼退治伝説

楽楽福神社の伝承

伯耆の国日野郡溝口村の鬼住山に悪い鬼 が沢山住み着いていました。
この鬼達は近くの村々に出ては人をさらったり、金や宝物・食べ物を奪って人々を苦しめていました。
これを聞かれた孝霊天皇は、みずから軍勢を率いて鬼住山の南のこれより少し高い笹苞山（さすとさん）に登り、鬼住山の鬼達をことごとく退治されました。
天皇が山に登り、布陣された時、人々は笹巻の団子を献上し、士気が大いに上がったといいます。それで、この山を笹苞山（さすとさん）とよぶようになりました。
鬼をおびき出す為、山麓の赤坂というところに団子を三つ並べたところ、弟の鬼『乙牛蟹』が出てきて討たれました。兄の『大牛蟹』は大いに怒り、手下を束ね一層暴れ、容易に退治することが出来ません。
ある晩　眠っている天皇に笹の葉を刈って山のように積上げなさい。そうすると風が吹いてそれらを舞い上げ、鬼を遅い退治出来るでしょう」とのお告げがあった。
これを聞いた天皇がその通りにすると三日目の朝、猛烈な南風が吹き、積上げた笹を「あれよあれよ」と鬼の住処の方へ、巻き上げて行きました。天皇はここぞとばかり、全軍を叱咤して舞いあがった笹の後を追い、鬼退治に向かいました。
笹の葉に巻きつかれ、また枯葉が燃え、鬼達はなすすべも無く、麓に逃げて降参 しました。
人々は大変喜んで麓宮原の地に笹で社殿を吹き天皇を祭りました。これが楽楽福（ささふく）神社のいわれです。

−楽楽福神社　古文書より−

大山山麓の「伯耆　溝口」は古代伯耆の国の一大製鉄地帯。
中国山地の山奥から流れ出て大山の山麓を縫い日本海へ流れ出る日野川。この日野川が大山の山裾から平野部に出る山合が伯耆溝口。この日野川沿いの山中は砂鉄の宝庫。この溝口の地では古代から、この川や山中の砂鉄と山中の樹木を焼いて作った木炭を使って、製鉄が広く行われてきた。
この山間の溝口を抜けるとそこは大山をバックに日本海まで、淀江・妻木の平野・丘陵が大きく広がっている。
この淀江の地は古代より、大陸から多くの渡来人がやって来て栄えた王城の地。

801 年、蝦夷征伐の本拠地として現水沢市に造った胆沢城（後の鎮守府）
「勇猛果敢な蝦夷の雄「アテルイ」は坂上田村麻呂率いる 10 万の大和朝廷軍を長年にわたり翻弄。「ヒタカミ(北上)の鬼」とおそ　れられた。多年にわたる戦いで兵力も次第に減少し、田村麻呂を信じてこれ以上の抵抗をあきらめて降伏。 500 の兵を連れて都に連れてこられたが朝廷は田村麻呂必死の懇願に関わらず斬首してしまった」という。
この一関・北上の北上川流域は豊富な鉄・鉱物資源を背景に東北で一番先に開けた地。金を背景にした藤原三代の栄華。
蝦夷の刀「蕨手刀」を発展させ、日本刀の源流奥州鍛冶 の伝統を作った「舞草刀」
ここも　和鉄の故郷である。

大江山に住む酒呑童子ほかの多くの鬼たちが都を荒らしまわっていた。
源頼光はこの鬼退治の為配下の四天王と呼ばれる渡辺綱・坂田金時・碓井貞光・卜部季武などを引き連れ、大江山へ。
頼光たちは鬼の城に泊めてもらったお礼に酒を差しだして鬼たちと酒盛り。夜になると、頼光らは起きだして酒呑童子のそばに近寄り、一気に首をはねた。
酒呑童子の首ははねられたまま頼光に飛びかかり、その兜にかみついたまま動かなくなった
酒呑童子は最期に「おのれ、図ったか。鬼は決して人をだましたりしないものを」と言った」という。
大江山の北側にある丹後の国は古代鉄の王国。特に大江山近傍の山並から流れ下る野田川・竹野川流域は古代遺跡と共に製鉄遺跡が点在する一大製鉄地帯

4　吉備国　「桃太郎伝説」の鬼城　99.5.29.

「真金吹く　吉備の中山　帯にセル　細谷川音のさや今朝」
”真金吹く”は吉備の枕詞。鉄の時に飛び散る火花を象徴している。
また、古墳の副葬品として鉄製品が出土（岡山市の神宮山古墳や金蔵山古墳）している。

鬼ケ城から吉備の中山　児島湾を望む

「真金吹く　吉備の中山・・・　」と歌われた吉備は 大和に対抗する古代王国があった所であり、かつ古代製鉄の発祥の地の一つ現在の総社市を中心とした吉備地方には古代遺跡・古代製鉄遺跡が目白押し。また、この地には「桃太郎」伝説の源流となった「ウラの鬼伝説」がある。
吉備の平野部から山にかかる所　吉備平野を一望出来る山の上に古代朝鮮の様式で作られた「鬼ケ城」がある。　詳細はまだ良くわかっていないが、古代　大陸からの進入に備えた砦だとも、この砦が「桃太郎の鬼退治」伝説の鬼ケ城とも伝えられている。頂上に立つとその下の平野には現在の総社市と古代吉備の国の数々の遺跡が広がり、直ぐ下の丘陵地帯の川筋からも 「たたら遺跡」が発掘され　鉄穴流し場などが整備された自然公園となっている。
また、この総社の地の後背の山並みの中には、鬼の住む山としてもう一つ「鬼ケ城山」がある。

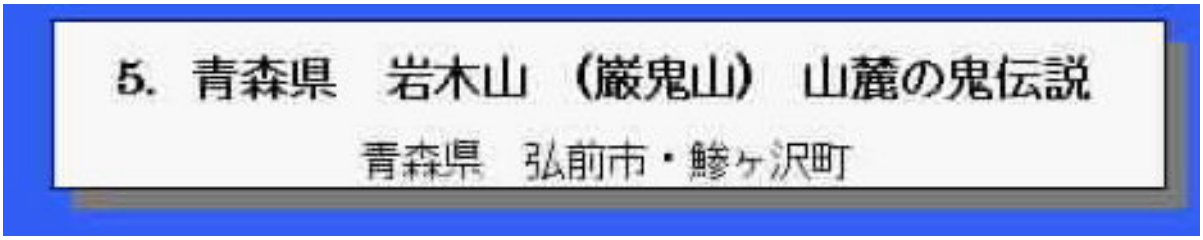
桃太郎伝説の原型　温羅伝説　温羅の居城と伝えられる「鬼ケ城」

桃太郎伝説の原型「温　羅　伝　説」

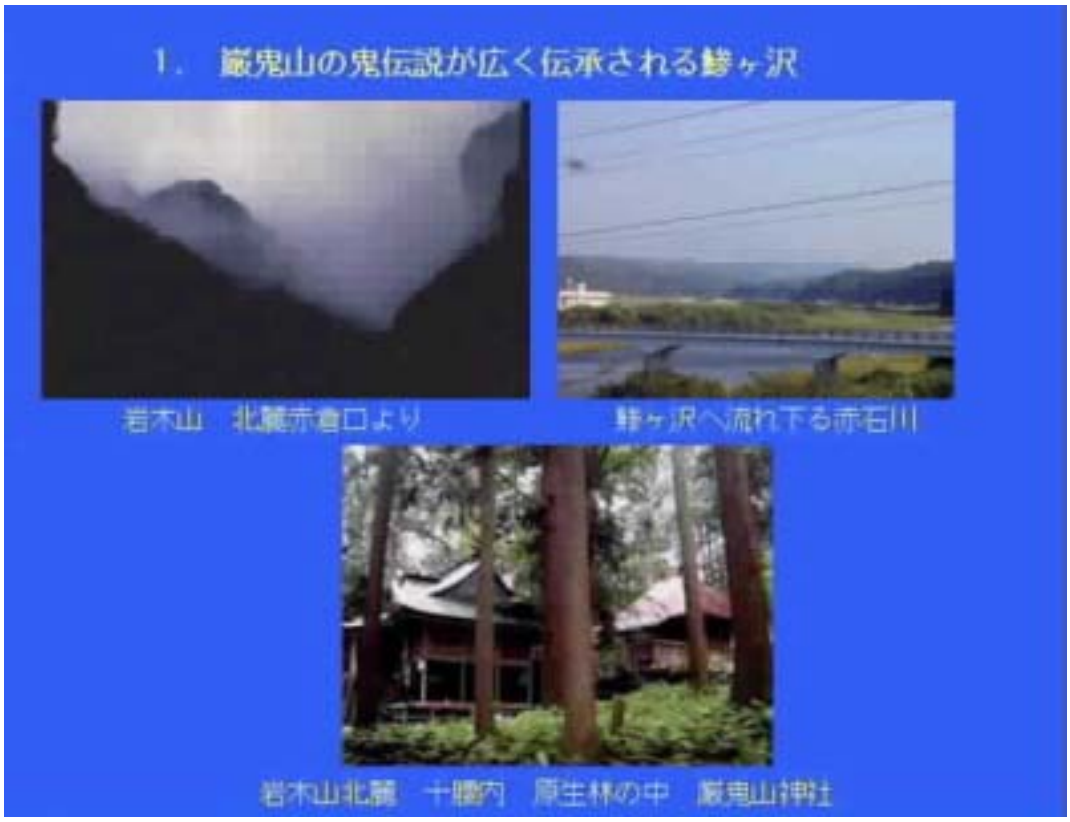
　　備中国 新山（にいやま、今の総社 市奥坂）に居城を築き西国から都へ通う船を襲っては人を
殺め、財宝を奪うなど、数々の悪事を働き、人々は温羅を「鬼神」その居城を「鬼ノ城」と呼んで恐れていた。温羅の悪行にたまりかねた人々は大和朝廷に温羅退治を申し出た。
武勇に優れた五十狭芹彦命（のちの吉備津彦命）。命は大軍を率いて吉備の中山に陣を張り、片岡山
（倉敷市矢部）に石楯を築いて戦った。
合戦の時　命の放った矢は、鬼ノ城から温羅が投げた岩と 空中でぶつかり合っては落ち、なかなか勝負がつかない。そこで命は一度に二本の矢を放つと一本は温羅の投げる岩とぶつかり合い落下したが、もう一矢は温羅の左目に命中。温羅の左目から吹き出した血は血吸川（総社市）に流れ、下流にある浜をも真っ赤に染めた。今その地は赤浜と呼ばれている。
命に追われた温羅は色々姿を変え逃げまわったが、とうとう命につかまり首をはねられた。
ところが、その首は土中に埋めるなど色々手を尽くしたが、13 年間もうなり続けた。
ある夜のこと、命の枕元に温羅が立ち「わが妻、阿曽媛に神饌を炊かしめよ。これまでの悪業の償いとして、この釜をうならせて世の吉凶を告げよう。」と。これが今に伝えられている吉備津神社の鳴釜神事である。

この桃太郎伝承・鬼伝説をどう読むか
温羅が朝鮮半島の百済または新羅の王子としたら、この温羅一族は鉄の技術を持って日本にやってきて、吉備の和鉄の技術を展開した産鉄の民と考えられないか・・・。出雲のスサノオ伝説がスサノオノミコトを新羅の王子として伝承しているのと同じかも。確証はないが・・・・
伝承を和鉄と重ねると良く符合して理解できる。大和朝廷が直接支配したかった吉備の和鉄。　この鉄の覇権をめぐって　吉備と大和との戦いがこの温羅伝説であり、桃太郎伝説と言えまいか・

吉備津神社の鳴釜神事の伝承と結びつけ、吉備にとって温羅は「鬼」ではなく　吉備繁栄をもたらした恩人であり、吉備の人達の思いを大和朝廷が無視できず、吉備津神社造営がなされたと考えている人もいる。
吉備の枕詞「真金吹く　吉備の中山・・・・・」と歌われた古代の大製鉄地帯　吉備を舞台に鉄の派遣を巡っての戦い・しいては日本誕生のため　吉備で展開された大ドラマ　それが「桃太郎」伝説ではないか・・・
鬼ケ城の上に立ち、眼下に広がる吉備の古代遺跡　製鉄の中心だった中山の丘陵地を眺めながら、この温羅の伝説に思いをはせました。



岩木山北山麓から鰺ヶ沢へ流れ下る赤石川・鳴沢川の流域は古代からの製鉄地帯であり、 また、岩木山は「巌鬼山」の名が示すとおり、多くの鬼が住んでいたとされている。
山の麓にはその元締めとして岩木山を信仰の中心とした巌鬼山神社・岩木山神社や鉄製品を祭る鬼神社など数多くの鬼伝説を伝承する郷が点在する。



鳴沢川の上流　原生林に包まれた巌鬼山神社の近くの郷鰺ヶ沢市十腰内には 「この地の長者の娘に恋をした鬼が　長者の命で不眠不休で十二本の刀を打ったが、娘をやりたくない長者が その内の二本を隠し、結局　娘をもらえず、刀が十本しかない（十腰内）といいながら山に帰っていった」
という鬼伝承が在る。また、この地には古い製鉄地名と共に古代製鉄遺跡が幾つか発見されている。

また、 岩木山北山麓の弘前市鬼沢には「村人を助けた鬼」の伝承が伝わっている。
「旱魃で田畑が荒れて困っている村人を見て一夜にして水路を作り水をひいて山に帰っていった鬼
今も節分には「福は内　鬼も内」と豆をまき、夏の「弘前ねぷた」には里を挙げて「鬼沢のねぷた」が街を練り歩く。」
また、この鬼沢の森の中にひっそりと鉄製品の献額を多数かかげた鬼神社がある。
今も里人に広く親しまれている「鬼の里　鬼沢」である。

「鬼」伝説　討たれる方の「鬼」には何か物悲しさと後ろめたさがついてまわる。
古代から今まで色々な形で表現され、伝承されてきた鬼のさまざまな形態を見ると上記しさ「物悲しさと後ろめたさ」の裏にあるのはなにか・・・・・?
日本人にとって「鬼」は「悪者」というより、愛すべき存在でなかったか・・・・?。
支配者に対して　必死に抵抗した「弱者」の代表ではなかったか・・・・・?

この鬼を古代日本に製鉄技術をもたらした「産鉄の民」とすると日本誕生のドラマはこの「産鉄の民」をはずしては語れない。しかし、伝えられた鉄の技術により、　争いが一層激しいものとなり、強者・弱者が生まれてきたのも事実。
現代の文明においても鉄を語る時　この二面性を常に持っていると言えまいか・・・・・

「鬼」伝説や伝承が色々変化して多数語られ、表現されるのもこの二面性ゆえ、また伝承のなかでも、知らず知らずこれを感じているといえまいか ?